

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」における 長吉中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日（火）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思いをします。

1 調査の目的

- （１） 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （２） 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （３） 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・長吉中学校では、3 年生 139 名

3 調査内容

（１）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・数学 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・数学 B】
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（２）児童生徒質問紙調査

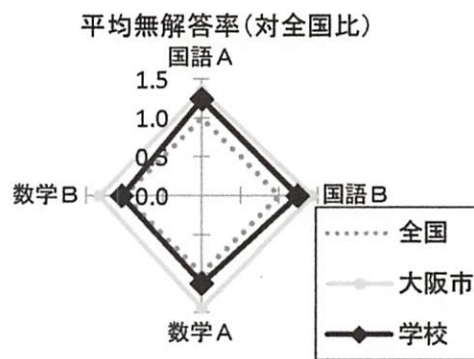
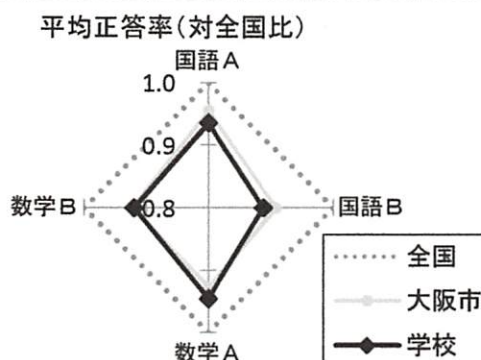
児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

長吉中学校

生徒数

139



結果の概要

【国語】平均正答率は、主として知識を問うA問題が74.3%、主として活用を問うB問題が45.3%でいずれも全国平均の79.4%・75.9%と5ポイント程度、大阪市平均の75.9%・46.3%と1ポイント程度下回っている。ただ昨年度と比較すると5ポイント程度上昇したことになる。「生徒質問紙」によると、「国語が好き」、「国語の授業の内容はよく分かる」と答えている生徒が全国平均を上回っている。「資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「自分の考えを書くと、考えの理由を気を付けて書いていますか」に関しては苦手と感じている生徒が多い。

【数学】平均正答率は、主として知識を問うA問題が63.7%、主として活用を問うB問題が55.0%で全国平均67.4%・59.8%と5ポイント程度下回っている。逆にA問題では大阪市平均の62.5%と1ポイント程度上回っており、B問題は55.2%とわずかに0.2ポイント下回っている。「生徒質問紙」によると、「数学の授業の内容はよく分かりますか」と答えている生徒が全国平均を大きく上回っている。「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」、「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」に関しても全国平均を若干上回っている。一方、「数学の授業が好きですか」が全国平均を少し下回った。

【平均無解答率】(国語・数学)本校の平均無解答率は国語A3.9%国語B4.3%数学A4.8%数学B11.2%であり、いずれも全国平均(順に3.1・3.5・4.3・10.9)よりは高く大阪市平均(同9.2・5.0・6.2・14.5)よりは低い。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校では近年、共同的な学びによる、生徒の「わからない」という思いを大切にグループ学習等を取り入れた授業改革と研究に努めている。「覚える」ことを主目的とせず、質の高い課題の設定をめざし、考えあひ学びあうことができる授業づくりに取り組んでいる。昨年度は「がんばる先生支援事業」による予算を活用し、外部講師を多数招いて授業へのアドバイスを受けたり、先進的な実践校への視察を行ったりしたところである。また、生徒の輝く機会を増やす活動の創造にも力を入れて取り組んでいる。これらの取り組みを通じ、生徒の学ぶ力は少しずつではあるが着実に伸びつつある。今回の全国調査でも平均正答率や無解答率に反映していると考えられる。以下に昨年度との比較と全体の概要について記す。

平成26年度の結果を前年度(平成25年度)と比較すると、

・国語A…11.6 → -5.1
・国語B…11.4 → -5.7
・数学A…6.2 → -3.7
・数学B…12.3 → -4.8

となった。全国との差はまだあるが、前年度に比して国語・数学ともにA問題・B問題において大きく改善された。「結果の概要」に記載した項以外の「生徒質問紙」調査からわかるおもな特長は、学力向上の根幹となる、いわゆる「早寝早起き朝ごはん」等基本的な生活習慣の育成については、「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」で全国平均を上回ったが、家庭学習の習慣化における「家で学校の授業を復習していますか」読書習慣の育成における「読書は好きですか」等で全国平均を下回るなどの課題がある。その他、自尊感情や規範意識の育成については、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」は全国平均と同じ数値であり、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では1ポイント程度全国平均を上回っており一定の成果が現れている。

今年度は残念ながら「がんばる先生支援事業」予算は獲得できなかったものの、引き続き校内授業研究会や外部での研究授業の視察を積極的に行っている。すべての教員が年一回以上指導案を明示した校内研究授業を行うことで、道徳を含むすべての教科で実施、すべてのクラスで体験する。今後は、すべての授業時間、あらゆる教育活動の中で本校取り組みを一層強化し、生徒たち一人一人が輝き喜びと自信を持って学んでいく場の保障に努める。

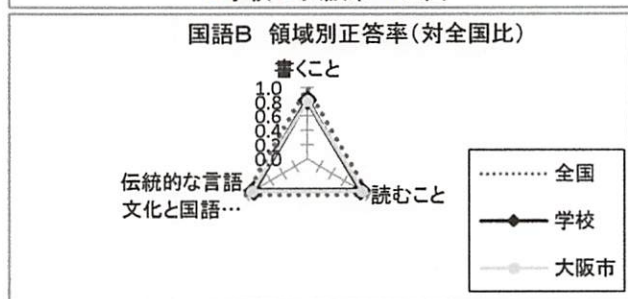
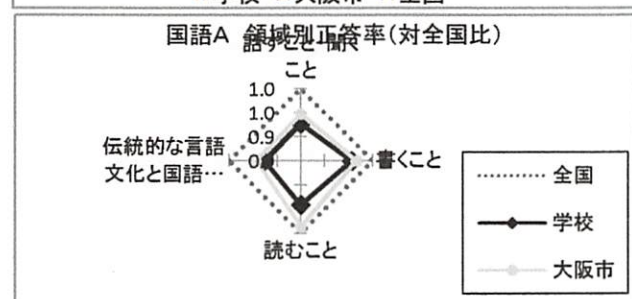
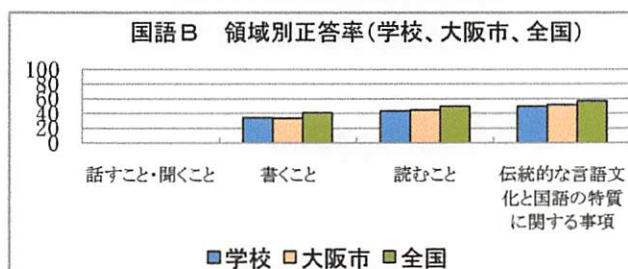
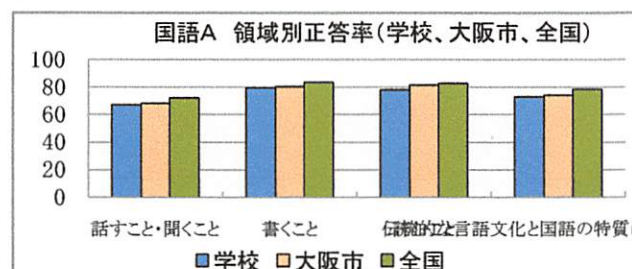
【国語】

結果の概要

A問題、B問題ともに全領域で全国平均を下回っている。「生徒質問紙」によると、「国語が好き」、「国語の授業の内容はよく分かる」と答えている生徒が全国平均を上回っている。「資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由を気を付けて書いていますか」に関しては苦手と感じている生徒が多い。

A 問題		平均正答率(%)		
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	67.1	68.5
	書くこと	6	79.8	80.6
	読むこと	5	78.0	81.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	72.9	74.3
	全国		72.3	82.9

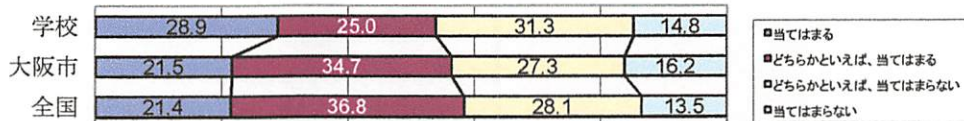
B 問題		平均正答率(%)		
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—
	書くこと	3	33.9	33.6
	読むこと	8	42.8	44.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	49.4	51.3
	全国		41.0	49.2



国語に関する「生徒質問紙」

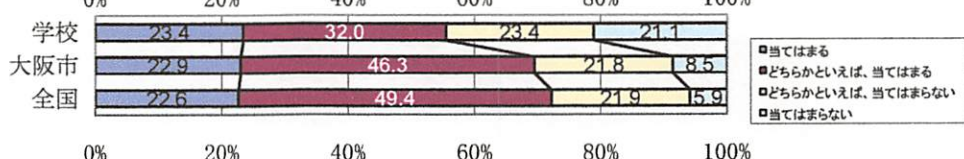
50

国語の勉強は好きですか



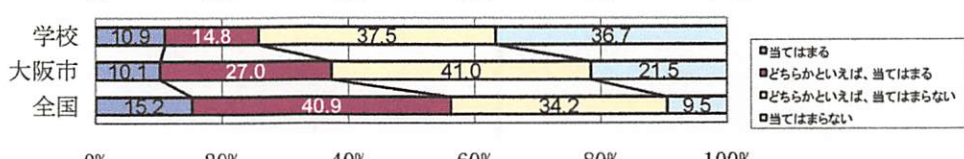
52

国語の授業の内容はよく分かりますか



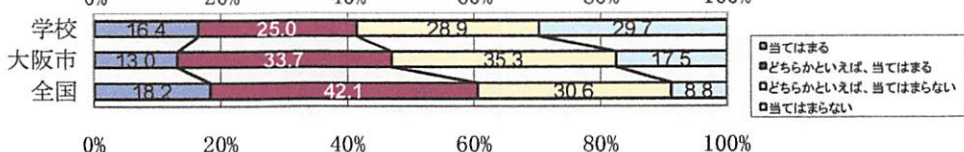
55

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

「国語の授業の内容はよく分かる」は全国平均を若干上回っている。「資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由を気を付けて書いていますか」に関しては苦手と感じている生徒が多い。特に「資料を読む」、「自分の意見を発表する」、「自分の意見を書く」力を育成することが必要である。

今後の取組

単元別の確認テスト等の取組を行い、基礎学力の定着に取り組んできた。今後は基礎学力の一層の向上を図るとともに特に「意見を発表する」、「意見を書く」力等を育成するためグループ学習なども積極的に取り入れ「自分の意見をまとめる・発表する」といった指導を重点的に行う。

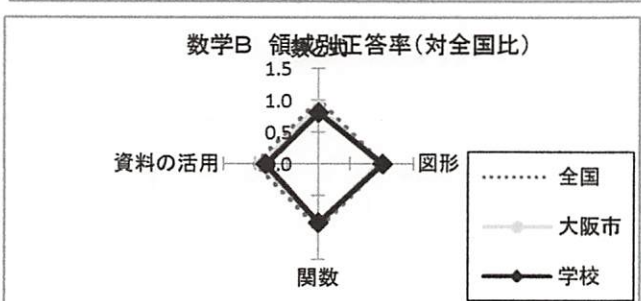
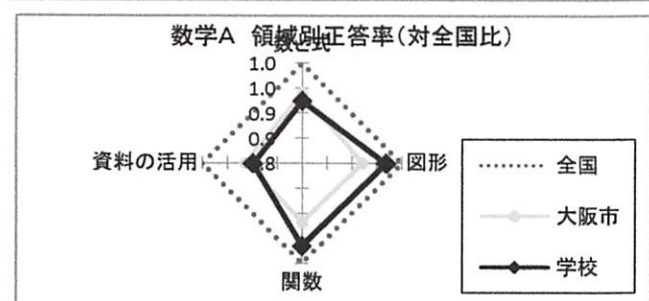
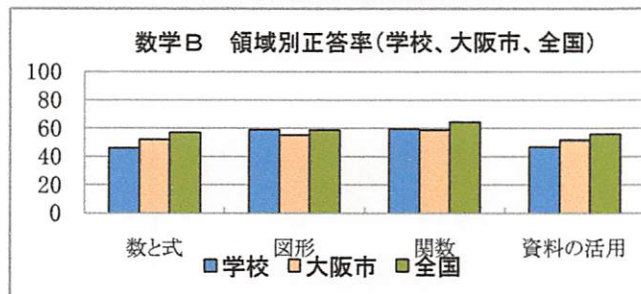
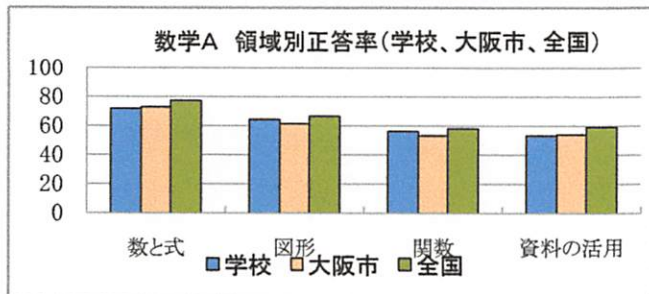
【数学】

結果の概要

A・B問題ともほとんどの領域で全国平均を下回っているが、Bの「関数」領域のみ全国平均を上回った。また大阪市平均を上回った領域もいくつかある。

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	12	71.6	72.8	77.4
	図形	12	64.3	61.2	66.4
	関数	8	56.0	53.2	58.0
	資料の活用	4	53.1	54.0	59.1

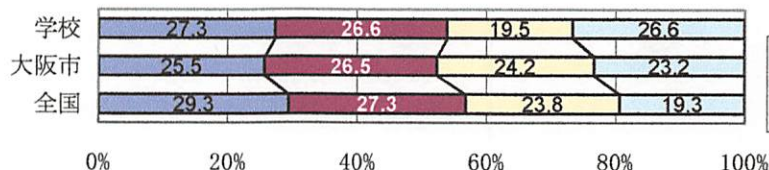
B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	3	46.0	52.1	56.9
	図形	5	59.1	55.0	58.6
	関数	5	59.2	58.5	64.4
	資料の活用	2	46.9	51.9	55.9



数学に関する「生徒質問紙」

62

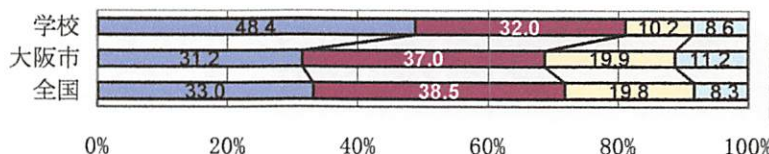
数学の勉強は好きですか



- ☐ 当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

64

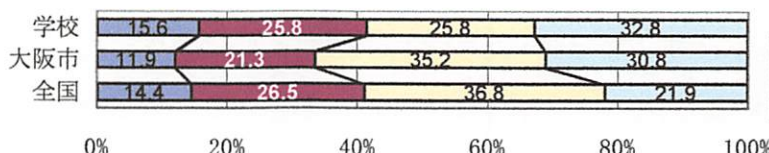
数学の授業の内容はよく分かりますか



- ☐ 当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

67

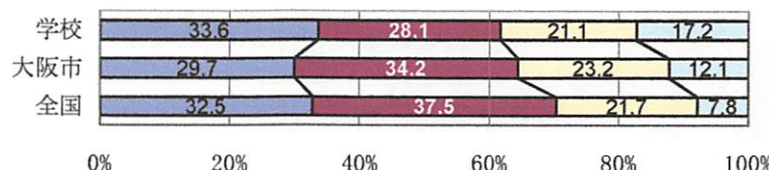
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



- ☐ 当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

70

数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



- ☐ 当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまる
- ☐ どちらかといえば、当てはまらない
- ☐ 当てはまらない

成果と課題

前年度に比してA問題・B問題において大きく改善された。また、「数学の授業の内容はよく分かりますか」と答えている生徒が全国平均を大きく上回っており、「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」、「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」に関しても全国平均を若干上回っている。ただ「数学の授業が好きですか」が全国平均を少し下回った。

今後の取組

「数と式」、「図形」、「関数」等全ての領域で昨年度より上昇したが課題は残る。引き続き、基礎学力の一層の向上に取り組むとともに、グループ学習なども積極的に取り入れ「学びあい・響きあい・表現する」といった指導を積極的に取り入れていく。

学びの充実に向けて(1)

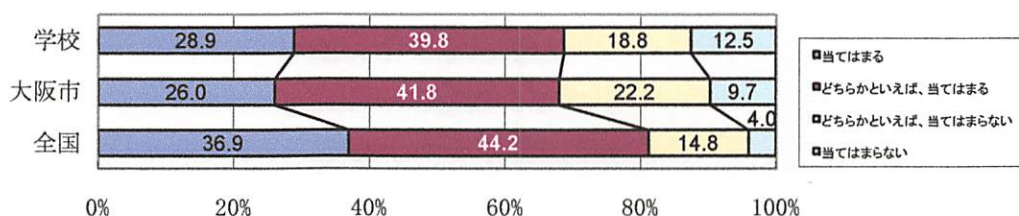
結果の概要

「1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていましたか」「読書は好きですか」「生徒の
間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」はすべて大阪市の平
均を上回っているが、全国平均と比較すると4～8ポイント程度下回っている。

質問 番号	質問事項
----------	------

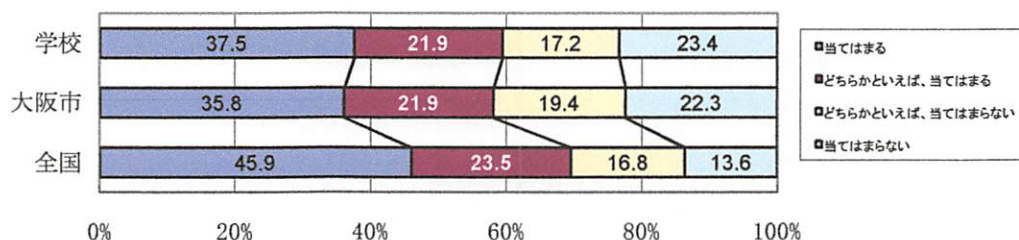
42

1・2年生のときに受けた授
業では、自分の考えを発表
する機会が与えられていた
と思いますか



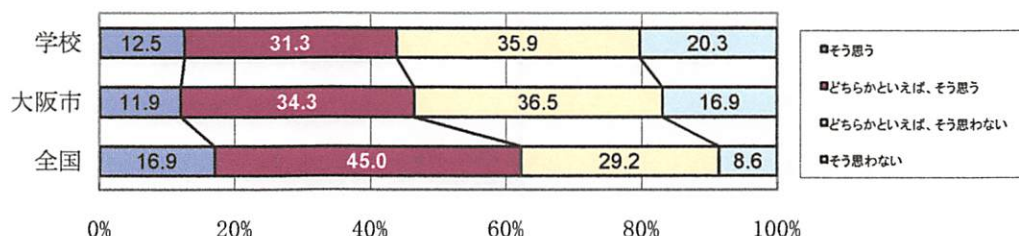
53

読書は好きですか



48

生徒の間で話し合う活動
を通じて、自分の考えを深め
たり、広げたりすることがで
きていると思いますか



成果と課題

昨年度と比較すると、「発表・読書・話し合いや思考力」の分野で上昇したが課題は残る。1・2年生のときに受けた
「授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」「授業の終わりに学習内容を振り返る活動を
よく行っていた」では大阪市・全国平均より下回った結果となった。

今後の取組

今年度より授業改革を伴う研究の目標として、すべての授業において目標(めあて・ねらい)を提示する取り組みを
進めている。よって、次年度以降は学習形態における目標の設定の分野において数値は上昇するものとする。ま
た、授業の振り返りについても各教科において「目標に準拠した指導」をより深化充実させることで数値目標につな
げていく。

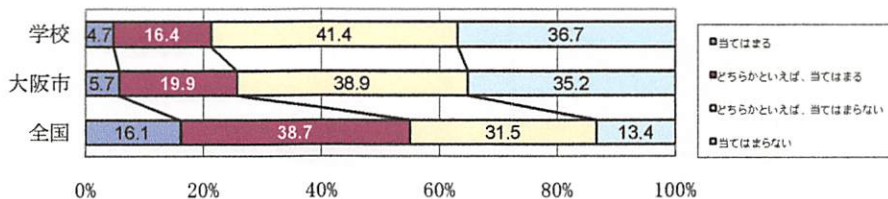
学びの充実に向けて(2)

結果の概要

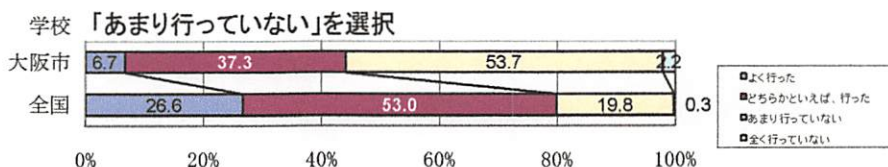
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」は大阪市平均も本校も全国平均を大きく下回っている。「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」において大阪市平均をはるかに上回っている数値を考えると、通常の授業においてはよく話し合う活動を行っていたが、「総合的な学習の時間」においては調べたことを発表する学習活動が充分ではなかった結果である。「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか」の学校質問紙の回答にあるように今年度より学習のねらいを明確にした授業研究をより進めている。

質問番号	質問事項
------	------

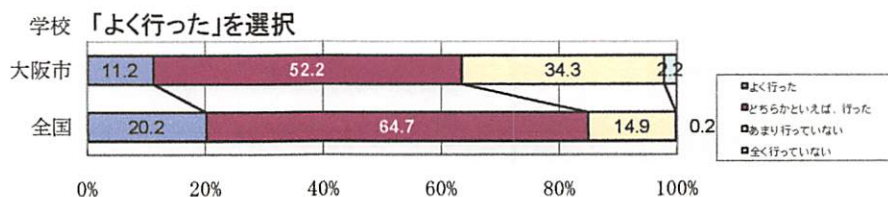
40
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



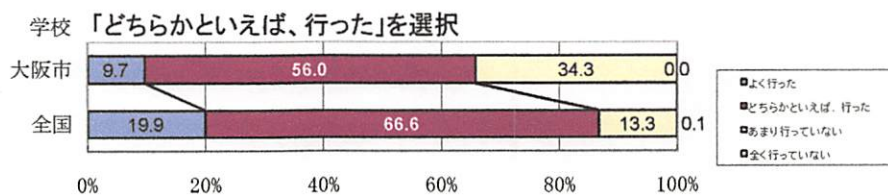
42【学校質問紙】
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



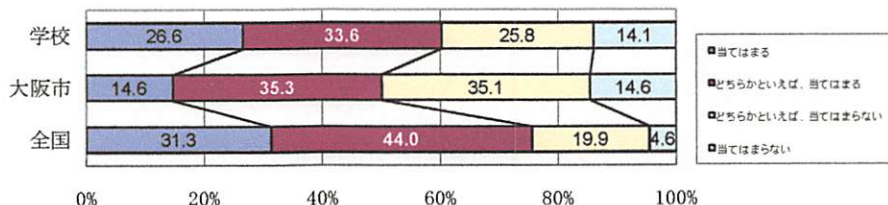
30【学校質問紙】
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



41【学校質問紙】
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43
1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題

「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」において大阪市平均をはるかに上回っている結果を見ると、これまでの取り組みの成果が表れているといえる。「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」は全国平均を大きく下回っているのは本校において、「総合的な学習の時間」は学校行事の取り組みを中心に行ってきた結果だといえる。

今後の取組

今後も授業改革を伴う研修を積み重ねることで、通常授業において話し合いや発表の機会を増やしていくことが全国平均に近づける方策であると考えます。また「総合的な学習」においても各行事のまとめにおいて話し合いや発表の機会を増やし、数値を上げることに努めたい。

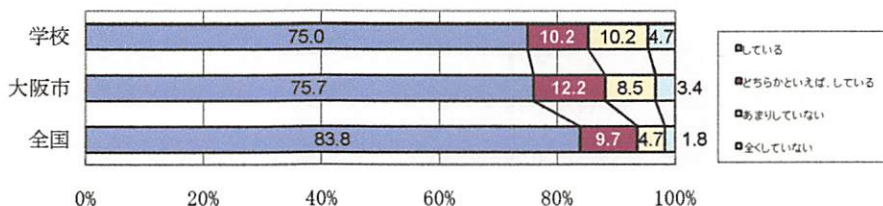
基本的生活習慣

結果の概要

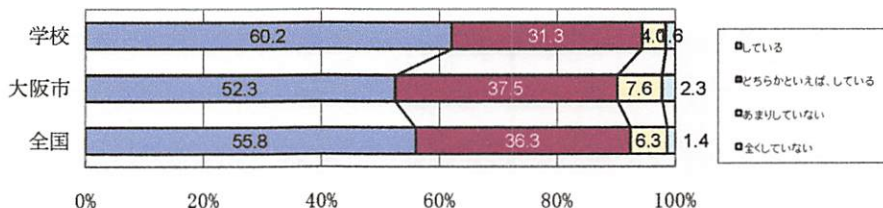
「生徒質問紙」によると、「朝食喫食」において全国平均を9ポイント程度下回ったが、「睡眠リズム」においては全国平均を5ポイント程度上回っている。1日当たりの「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネット」「テレビゲーム」における4時間以上の数値はともに全国平均を5~7ポイント上回っている。
「学校の規則を守る」は3ポイント程度全国平均を下回っているが、昨年度と比較すると7ポイント程度上昇している。

質問番号	質問事項
------	------

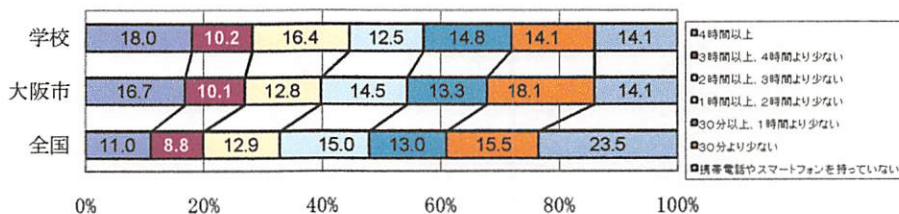
1
朝食を毎日食べていますか



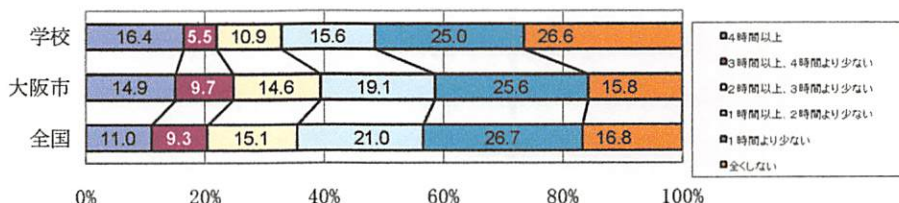
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」が全国平均を上回っているのは、粘り強く基本的生活の定着に向けての取り組みの成果である。ただ、「朝食を毎日食べていますか」は全国平均を少し下回った数値となっているので、今後とも粘り強く地域・保護者との連携に努めていきたい。携帯電話・スマートフォンやゲームに費やす時間の多さは本校の生徒の大きな課題である。

今後の取組

全校集会および各学年通信において、基本的生活習慣の定着に向けて繰り返し啓発を進めている。今後は学校ホームページも活用し、学校行事の紹介にとどまらず基本的生活習慣定着に向けての啓発活動を進めていく。また、携帯電話・スマートフォンにおけるトラブルの多発は費やされる時間と比例している事象でもある。今後も粘り強く生徒のみならず地域・保護者へ啓発活動を進めていくことで、正しい情報管理能力を身に着けるスキルアップを図っていきたい。

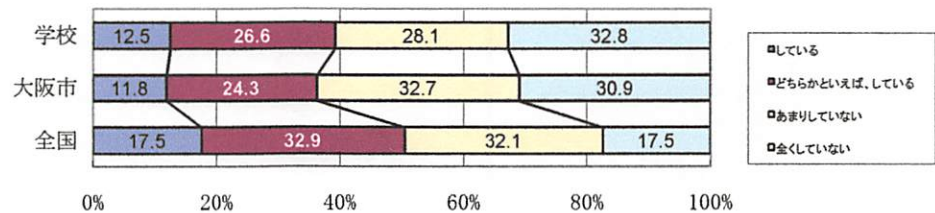
家庭学習

結果の概要

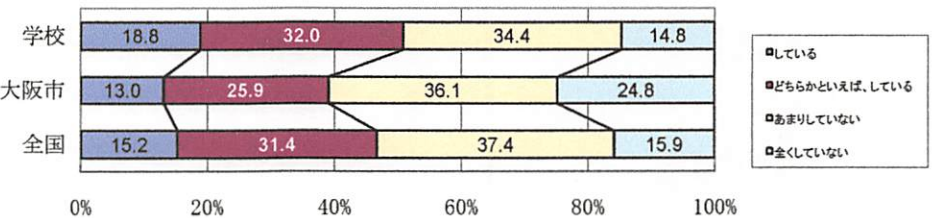
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」はともに全国平均を3ポイント程度上回っている。「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では全国平均を8ポイント程度上回っている。ただ、「家で、学校の授業の復習をしていますか」が全国平均を下回った結果となった。

質問番号	質問事項
------	------

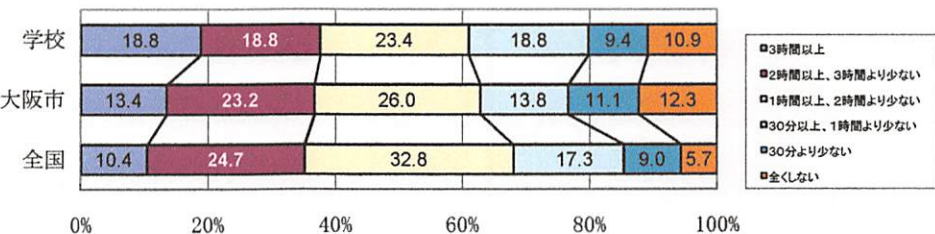
24
家で、学校の授業の復習をしていますか



21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



成果と課題

家庭学習や計画を立てての学習の分野では昨年度より数値が上昇し、全国平均には及ばないが大阪市平均を上回る数値となった。ただ、学校の授業以外の学習において3時間以上と回答した生徒が全国平均を大きく上回る数値となったのは学習塾等で費やされる時間を指しているの、家庭学習そのものの充実したものとなった結果ではない。また、全くしないと回答した生徒が大阪市平均より下回ってはいるものの全国平均を大きく上回る数値となっていることは家庭学習における大きな課題として受け止めなければならない。

今後の取組

家庭における自学自習をより充実したものとするため、適切な課題を設けた教科指導ならびに子どもたちの興味・関心を引き立て意欲を喚起する教科指導に努めなければならない。また、学習塾に頼る実態を鑑みた場合、学校として学力向上に向けた取り組みを新たに構築していく必要がある。学校元気アップ地域本部事業はその可能性を有しており、現在、少しずつ広がっている学習支援ボランティアを人的にも充実したものにしていきたい。

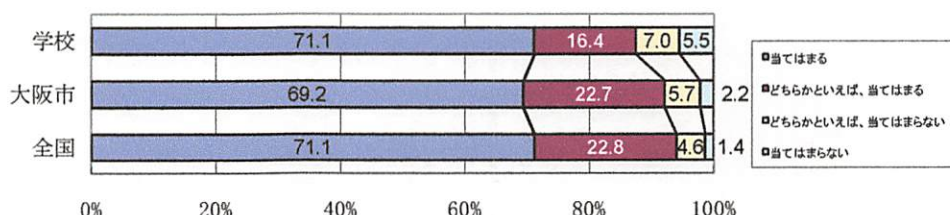
自尊感情・規範意識

結果の概要

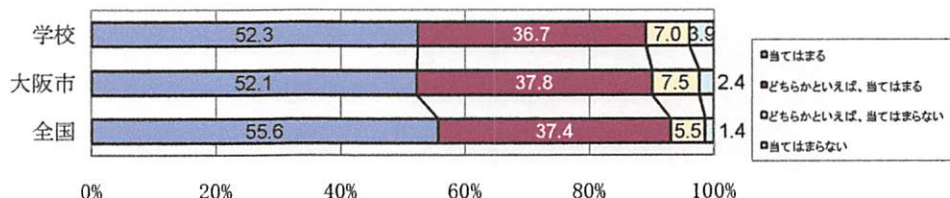
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」は大阪市の平均を上回り全国平均と同じ数値となっている。同様に「自分には、よいところがあると思いますか」も全国平均とほぼ同じ数値であり、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」は全国平均を超える数値となっている。ただ、「学校の規則を守っていますか」は昨年度から数値は上昇したものの、若干全国平均を下回る数値となっている。

質問番号	質問事項
------	------

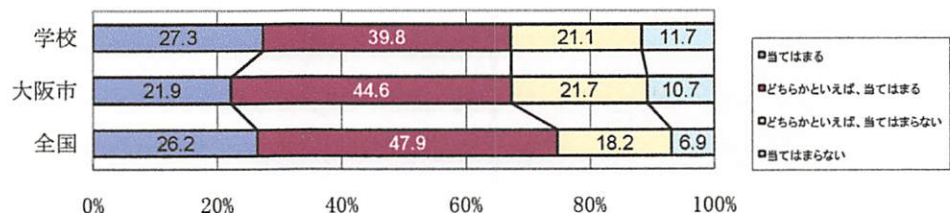
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



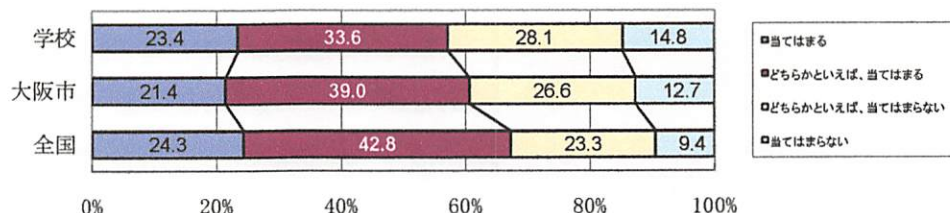
34
学校の規則を守っていますか



28
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6
自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

自尊感情や規範意識については昨年度より数値は上昇している。これは体育行事を中心に達成感や充実感を大切にしてきた取り組みの成果だといえる。次年度は「学校の規則を守っていますか」においても全国平均を上回る数値としていきたい。

今後の取組

校長経営戦略予算によって「長中ソーラン」は昨年度以上に躍動感あふれるものとなった。これはまさに子どもたちにとっての達成感や充実感を向上させる取り組みであり、その成果はこれらの数値となって表れている。今後も長中ソーランを含めた生徒会行事が模範的役割を担い、部活動を含めたあらゆる分野で子どもたちの自尊感情醸成に貢献することは大である。

学校・家庭・地域の連携

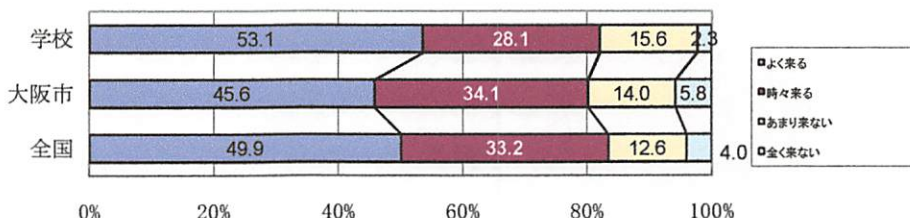
結果の概要

「家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」は大阪市はむしろ全国平均も大きく上回る数値である。「家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか」は大阪市平均を上回り全国平均に近い数値となっている。ただ、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」は全国平均を大きく下回る結果となっている。

質問番号 質問事項

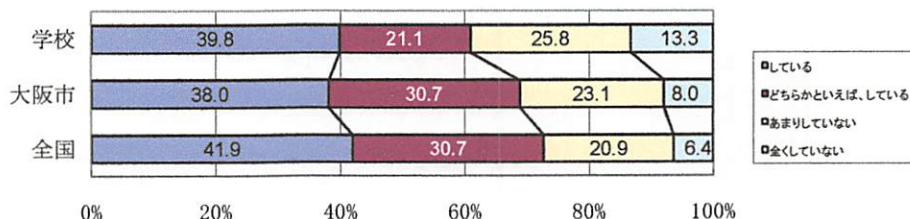
20

家の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19

家の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



成果と課題

自尊感情の項目で記したように、「長中ソーラン」をはじめとする生徒会行事の活性化で体育大会や文化祭は昨年度以上に多くの保護者が来校された。この伝統は今後ともぜひ継続していきたいと考える。学校の出来事を家庭で話している状況についても同様に数値的には上昇している。ただ、「地域や社会で起こっている問題や出来事」に対する関心の低さは大きな課題としてある。

今後の取組

学校と地域・保護者の連携において体育大会ならびに文化祭が果たす役割は大きい。今年度の成果を次年度以降も継続発展させていくことが本校の目標であり、地域連携が中核となって学校活性化の道筋を切り拓いていくのが本校の特長といえる。逆に学校行事が停滞するときはあらゆるものが停滞するものと覚悟しなければならない。よって、次年度以降も体育大会や文化祭ならびに部活動を含めた教育活動をより活性化し、地域・保護者に誇れる学校づくりを目指すものとする。

学校組織の改善

結果の概要

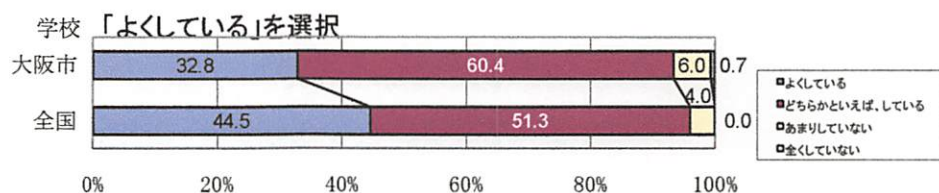
「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的な取組」「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組」については学校長自らが率先垂範し、教育目標達成に向けて教職員一丸となって取り組んでいる。「授業研究を伴う校内研修」については昨年度は「がんばる先生」支援事業の指定を受けより充実したものにしてきた。今年度は指定から外れたものの、その方向性は失わずに教職員全員で組織改善に取り組んでいる。

質問
番号

質問事項

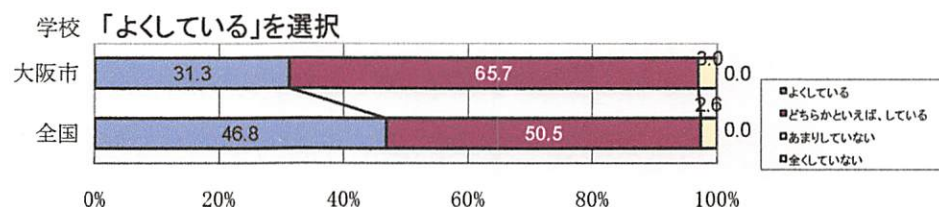
98【学校質問紙】

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



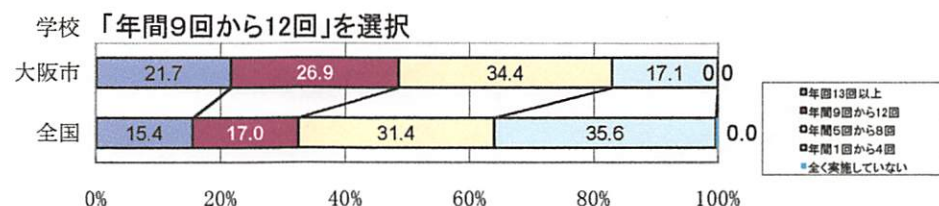
96【学校質問紙】

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか



89【学校質問紙】

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



成果と課題

生活指導の分野においては生徒指導主事が中心となって課題解決に向けて取り組んでいる。「治療的生活指導」から「予防的生活指導」そして現在は「開発的生活指導」へ発展するよう取り組んでいる。ただ、生活指導面において学校が安定したがゆえの課題も考慮していかなければならない。授業改革を伴う校内研修体制については研修主担の首席が中心となって、外部講師を招いての校内研修会を年に6回企画している。今後懸念されることとして、研修主担の後継を育てることが急務である。

今後の取組

学校活性化に向けて、生活指導面では、校長経営戦略予算に基づく取り組みを進めてきた。この学校行事や部活動の活性化は子どもたちの自尊感情醸成ならびに規範意識向上に数値となって表れている。今後も生徒会を中心に体育大会や文化祭をより良いものとしていく。国語・数学においてすべての分野で昨年度より5ポイント程度数値が上昇したことは、教員の地道な取組の成果である。今後も日常の授業の在り方を日々研修等を通じて研鑽を重ね、長吉中学校としての授業改革を推進していく。